



高梁川近似河原 (ききょう緑地)

領内に郷倉設
興、民政刷新
刷新、産業振
蔵屋敷の廃止
の延期、大坂

理(借金返済
年(一八五二)九月、領民たちの面前で焼
却するパフォーマンスに打って出しました。
高梁川近似河原での藩札焼却は、朝の八時
から夕方四時までかかったといひます。
そして「永銭」という新しい藩札を発行し
ます。永銭には金貨に交換される旨の明文

「撫育」とは人をいづくしみ育てる意です。
この役所は、藩内で生産された年貢米以外
の一切の産物を取り扱い、販売管理も手が
けました。撫育方の働きによって、備中松
山藩の殖産興業は大いに進んだのです。
(文・渡辺道夫)

山田方谷に学ぶ

2

二、方谷の藩政改革—その1

嘉永二年(一八四九)、板倉勝静が新藩
主になると、十二月、方谷は江戸藩邸に呼
び出され、勝静から藩の元締役兼吟味役藩
財政の責任者)を命じられます。当時の備
中松山藩は、大変苦しい財政状況にあり、
借金の利息を払うのに精一杯で、元金は減
らず、借金を重ねるといふ状況でした。

置、賄賂を戒め、賭博
を禁止、目安箱の設置
など)、文武奨励(学
問所・教諭所・寺子屋・
私塾の充実など)、さらには軍制改革(農
兵制創設)などの藩政改革に全力をあげて
取り組みます。



左から、永銭・備中鍬・鉄釘

が記され、極めて高い信用を得て、他
藩の領内まで流通するようになりま
した。

次に、産業振興の方策です。切り札
は鉄でした。高梁川上流の備北地区は
鉄の宝庫です。方谷は、鉄山の開掘を
藩の直轄事業とするとともに、鉄を加
工する工場を次々と建設し、それに従
事する技術者をスカウトしてきまし
た。そして良質の鉄を材料に、刃物や
鍋・釜などの鉄器、鍬や鎌などの農具、釘
などを生産し、これらの製品を高梁川を利
用して、河口の玉島港に運び、そこから船
で江戸という大消費地に直送し、販売しま
した。とりわけ三本歯の「備中鍬」は人気
を博し、大火の多い江戸の町では「鉄釘」
が高値で売れたといひます。幕末には吹屋
の銅山も買収しています。さらに方谷は、
煙草、柚餅子などのブランド化にも成功。
中でも、煙草は質がよく「松山刻」と呼ば
れて全国的に有名でした。

高梁市と株式会社トヨタレンタリース岡山と包括連携協定

5月18日(月)、トヨタレンタリース岡山と高梁市は、災害支援や地域の活性化、市民サービ
スの向上、そして観光で訪れる人の利便性向上を目指し、包括連携協定を締結しました。

この協定では、両者がそれぞれ持つ車両や人材、
知識などの資源を活かしながら連携を深め、地域の
課題解決や魅力向上に取り組んでいきます。

今後も、市民の皆さんにとってより暮らしやすく、
訪れる人にも快適なまちづくりを進めていきます。



サツマイモの苗植え

5月22日(金)、川上こども園の園児と民
生委員・児童委員の皆さんが、一緒にサツマ
イモの苗植えを行いました。園児たちは、苗
を植えたりペットボトルで水やりをしたりし



ながら、民生委
員の皆さんに優
しく教えてもら
い、楽しく農業
を体験しました。
最後には「秋の
イモ掘りであ
また会おうね」と
約束し、再会を
楽しみにしながら
笑顔で交流を
終えました。

岡山シーガルズ スプリングキャンプin 高梁

5月29日(金)から31日(日)にかけて、
岡山シーガルズが高梁市でスプリングキャン
プを開催しました。公開練習やバレーボール
教室を通じて市民やバレーボール団体と交流
し、競技の魅力を伝えるとともに、地域とチ
ームのつながりを深めるよい機会となりました。



山田方谷のことば解説



国道180号に設置されたのぼり旗

至誠惻怛(しせいそくだん)……まごころ(至
誠)と、いたみ悲しむ心(惻怛)があれば、
やさしくなれます。これは人の痛みを自分
の痛みと感ずる心といつてもよいでしょ
う。山田方谷の生き方の真髄ともいうべき
言葉です。このような生き方を身に着ける
ことで、自己中心的な考えを打破したいも
のです。

知行合一(ちぎょういち)……山田方谷が学
んだ陽明学の言葉です。「知る」と「行
う」ことは、どちらも心の働きであり、本
来は一つのものであるという考え。私心を
排した自然な心が、善と知ると同時に行動
する。しかし、不善と知れば決してそれ
を行わないという行動の指針となる教えです。
治國平天下(ちこくへいてんか)……「国を治
め、天下を平和にすること」を意味します。
これは、儒教が目指す理想的な政治像を示
す言葉で、「修身齊家治國平天下」という
連続した言葉の一部です。天下を平和にす
るためには、まず個人が自分自身を修め、
次に家庭を整え、そして国を治めることが
必要であるという教えです。